事故報告書

フルーツ・シャトーよいち

施設長	施設長補佐	援助課長	医務課長	相談員	係長	担当

ﾌﾘｶﾞﾅ	●●●●	男 (女)	要介護３	移動	□独歩 □歩行器 □杖歩行 ■車椅子 □その他（ ）
本人氏名	●●●● 様	93 歳			
報告者	●●●●●			発生(発見)日時	平成25年11月13日(水) 08:00 分頃

場所

□居室 □ﾎｰﾙ □浴室 □ﾄｲﾚ ■拠点ﾌﾛｱ □廊下 □階段 □屋外 □送迎車内
□その他（ ）

状況

■転倒 □転落 □誤食 □誤嚥 □誤薬 □ﾄﾗﾌﾞﾙ □単独外出 ■介護中 □不明
□その他（ ）

朝食前、車椅子から食卓椅子へと移乗する際に、一部介助で立ち上がって頂くも、右側に傾くようにバランスが崩れ、足の力が抜てしまう。そのまま、職員が支えたが支えきれず右臀部から横すわりで尻餅をつくように床に腰が落ち、その後反動で上半身が右側に倒れる。
支えがあった為衝撃は少なかったと思われるが、臀部の骨が直接床に当たるよな角度で床に座ってしまっており、その後の上半身が倒れる反動で、関節付近に負荷が掛かってしまった可能性が高い。

9：30 施設長・施設長補佐に、事故の内容を報告する。
9：40 援助係長より、ご家族様へ事故の状況説明・謝罪した旨を施設長へ報告する。
11：50 援助係長より、ご家族様へ直接改めて状況伝え、謝罪させていただいた旨を施設長へ報告する。

症状

□無傷 □表皮剥離 □擦過 □切傷 □内出血 □火傷 □腫れ □変色 □熱感
■その他（骨折 ）

部位：右臀部・右大腿部

転倒後、本人に痛みの有無確認すると、右臀部から右大腿部にかけて痛みがあるとの訴え有り。終始さすっている様子見られる。右足を伸縮すると、激痛を伴うのか顔を顰められ、『痛い痛い！』と訴えられる。

対応

□様子観察 ■湿布 □冷却 □吐かせる □吸引 □止血 ■受診 □その他（ ）

転倒後、本人に痛みの有無確認後、職員2名で抱え上げ車椅子へ移乗し居室へ誘導する。居室のベッド上で触診・状態観察行う。バイタル・体温測定するも特変見られず。
痛みある為ベッド上にて安静保ち、朝食欠食とする。9:00医務出勤。指示により右大腿部に冷湿布貼付する。
10:00より、●●●●病院受診となる。

ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ	体温	36.7 ℃	血圧	118 ／ 84 mmHg	脈拍	回/分	SPO2	%	計測時間	9:15

要因・原因

□見守り不足 □知識・技術不足 □ﾙｰﾙ不遵守 □情報不足 □環境・設備 □設備・点検不足 □人為的問題
■その他（いつもどおりに介助をおこなったが対処できず転倒に至る。 ）

・いつも通り立位が取れた為、バランスを崩す事は予測していなかった。またバランスの崩れ方が右斜めであり、想定外だった。
・車椅子を●●氏から離す時、やや時間がかかってしまった。
・床への降り方が真っ直ぐではなかった為、右半身により負荷がかかってしまった。
・真後ろに立って介助にあたったが、斜め横に入って介助を行った方がよりスムーズであったのではないかと考えられる。
（11月15日ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ委員会）

事故防止対策

・車椅子から食卓椅子（逆も同様）への移乗の方法を再確認、よりスムーズに介助できる方法を必要に応じて指導。
・立ち上がった後にバランスを崩した際の対応を統一する。
バランスを崩し、姿勢を持ちこたえられない状況の場合には一度床にゆっくり座っていただく対応をとる。
その際に、安全に身体を支え床に座ってもらうまでの動作を検討し、統一する。

ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの必要性について □不要 ■必要 退院後、対応再検討

家族への説明

平成25年11月13日(水)	説明方法	□面会 ■電話	説明職員	●●●●●
家族氏名	●●●●●氏		続柄	長女

9：30 事故の状況お伝えし、謝罪。右臀部から右大腿部にかけて痛みがあることと受診させていただく事をお伝えする。了承いただき、『よろしくお願いします』とお言葉ある。
11：40 病院にいらしているとの事で、援助係長から直接ご家族様へ改めて状況詳しくお伝えし、謝罪。了承いただき、『少し留守にしますけど、またお願いします』とお言葉いただく。